

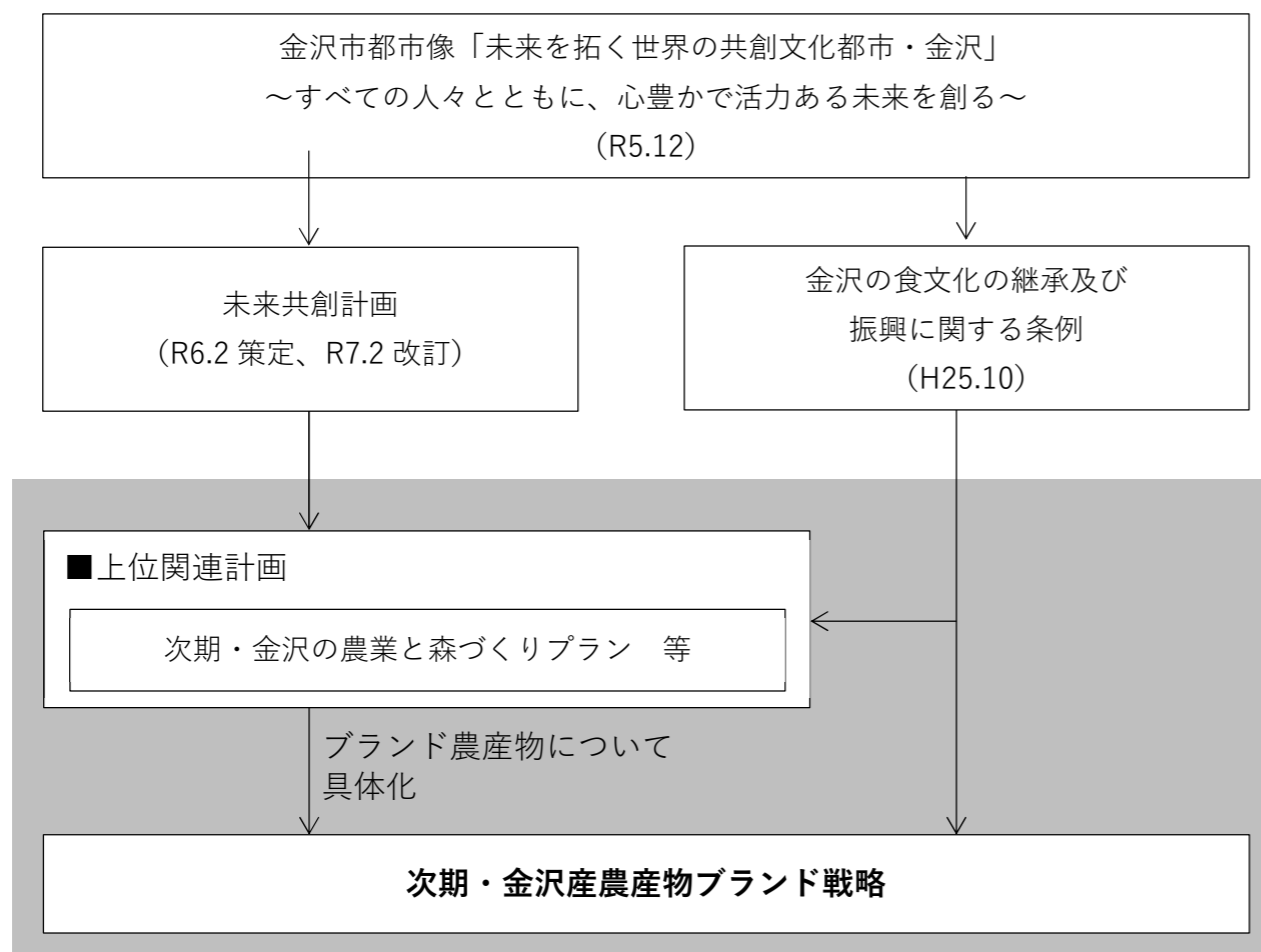
次期・金沢産農産物ブランド戦略 骨子案

1) 戦略策定の趣旨

「金沢産農産物ブランド新戦略 (H27.4 策定)」策定後の金沢産農産物を取り巻く環境の変化を踏まえ、社会情勢や消費者ニーズへ対応しつつ、金沢産農産物の一層のブランド力向上を推進するため、施策の方向や目標、具体的な取組を明確にした新たな戦略を策定します。

2) 戦略の位置づけ

本戦略は、“「未来を拓く世界の共創文化都市・金沢」～すべての人々と共に、心豊かで活力ある未来を創る～”と「未来共創計画 (R6.2 策定、R7.2 改訂)」の主旨を反映するとともに、上位計画である「次期 金沢の農業と森づくりプラン」等の具体化を図り、策定します。



3) 計画期間

本戦略の期間は、上位計画である「次期・金沢の農業と森づくりプラン」の計画期間にあわせ、**令和8年度から令和12年度の5年間**とします。

なお、社会情勢の変化や施策の効果に関する評価を踏まえ、必要に応じて見直しを行っていきます。

4) ブランド農産物の現状

■多くの加賀野菜の栽培戸数、栽培面積、出荷量は平成26年度と比べて20%以上減少していて、特に加賀野菜希少品目の半数は栽培戸数が3戸以下となっています。

【市内の加賀野菜、金沢そだちの栽培戸数・栽培面積・出荷量の推移】

加賀野菜	栽培戸数	栽培面積	出荷量	加賀野菜希少品目	栽培戸数	栽培面積	出荷量
さつまいも	→	→	→	へた紫なす	↘	↘	↘
加賀れんこん	↘	→	→	金沢せり	→	↗	→
たけのこ	↘	↘	↘	加賀つるまめ	↘	↘	↘
加賀太きゅうり	→	→	→	二塚からしな	↗	→	↘
源助だいこん	→	→	→	赤ずいき	↘	↘	↘
金時草	↘	↘	↘	くわい	↘	↘	↘
打木赤皮甘栗かぼちゃ	↘	↘	→	全体	↘	↘	↘
金沢春菊	→	↗	↗				
金沢一本太ねぎ	↘	→	↘				
全体	↘	→	→				

↗ : H26と比較して20%以上増
 ↘ : H26と比較して20%以上減

※金沢そだちはH27と比較

金沢そだち	栽培戸数	栽培面積	出荷量
きゅうり	↘	↘	→
すいか	→	→	→
小玉すいか	→	↗	↗
なし	→	→	↘
トマト	→	→	↘
だいこん	↘	→	↘
全体	→	→	↘

出典：庁内資料

■金沢市民の「加賀野菜」の認知度は9割超ですが、他の居住地では「京野菜」が8～9割と最も高い割合を占め、次いで「加賀野菜」もしくは「他地域のブランド農産物」が挙げられます。また、金沢市でも「金沢そだち」の認知度は「京野菜」を下回っています。

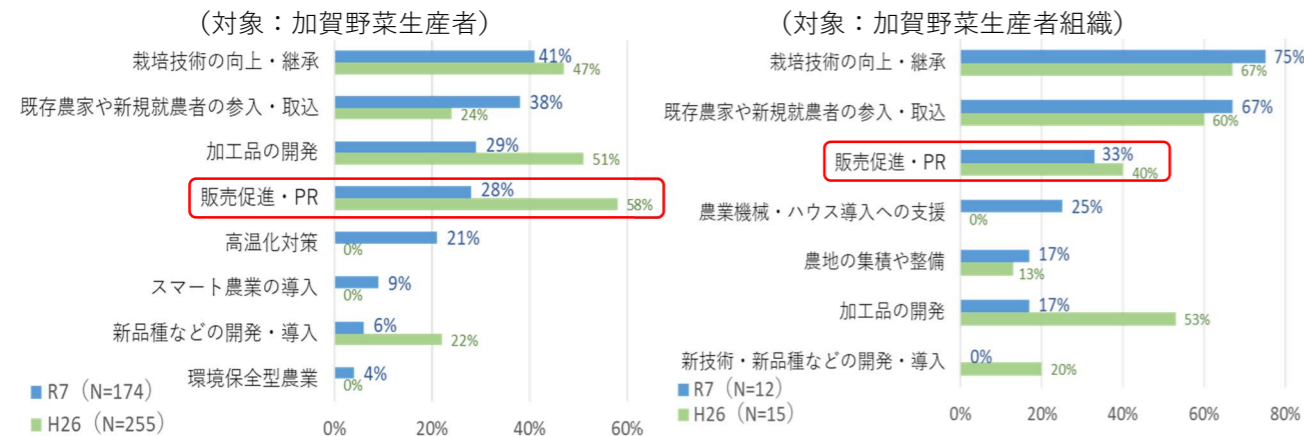
【三大都市圏・金沢市における地域ブランド農産物の居住地別認知度】

居住地別認知度				
	首都圏 (N=413)	関西圏 (N=413)	中京圏 (N=413)	金沢市 (N=413)
1位	京野菜 (84%)	京野菜 (89%)	京野菜 (81%)	加賀野菜 (95%)
2位	鎌倉野菜 (54%)	大和野菜 (40%)	加賀野菜 (44%)	京野菜 (90%)
3位	加賀野菜 (43%)	加賀野菜 (39%)	愛知の伝統野菜 (44%)	金沢そだち (45%)

出典：消費者の意向調査 (R7 金沢市農業水産振興課)

■加賀野菜の生産者、生産者組織とも産地の維持・拡大に必要な取組として「販売促進・PR」が上位に挙げられています。

【産地の維持・拡大に必要な取組】



出典：生産者アンケート、生産部会アンケート (R7 金沢市農業水産振興課)

■ブランド農産物を購入しない理由は、居住地で順位差はありますが、「どこで売っているかわからないから」「普段行くお店では売っていないから」が上位に挙げられています。

【三大都市圏・金沢市におけるブランド農産物を購入しない理由】

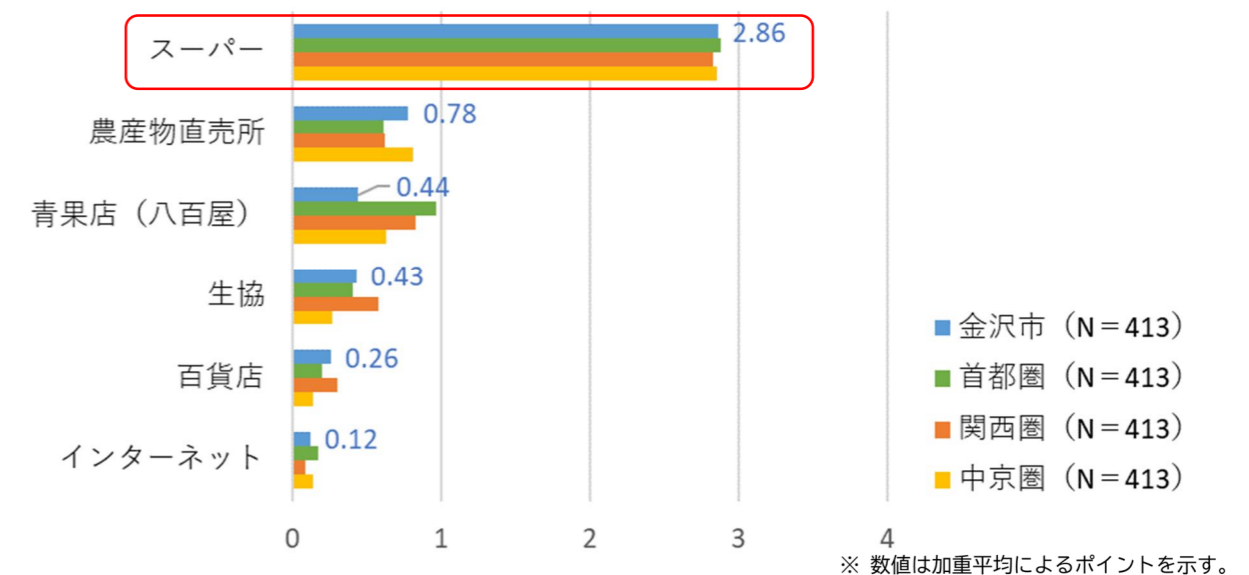
項目	首都圏 (N=413)	関西圏 (N=413)	中京圏 (N=413)	金沢市 (N=413)
購入しない理由	1位 どこで売っているかわからないから (1.31)	普段行くお店では売っていないから (1.33)	どこで売っているかわからないから (1.45)	値段が高いから (1.39)
	2位 普段行くお店では売っていないから (1.30)	値段が高いから (1.27)	普段行くお店では売っていないから (1.28)	どこで売っているかわからないから (1.05)
	3位 値段が高いから (1.29)	どこで売っているかわからないから (1.23)	値段が高いから (1.23)	普段行くお店では売っていないから (1.03)

※ () 内の数値は加重平均によるポイントを示す。

出典：消費者の意向調査 (R7 金沢市農業水産振興課)

■野菜の購入先は、「スーパー」が他項目と大きく差をつけて最も高くなっています。

【三大都市圏・金沢市における普段の生活で野菜を購入する場所】



出典：消費者の意向調査 (R7 金沢市農業水産振興課)

5) 策定の方針

ブランド農産物を取り巻く課題

□農業者の減少や高齢化の進行、夏季の高温化などによる品質・収量の減少などが生じています。

加賀野菜希少品目は特に農家戸数が少なく、出荷数量も平成26年度と比較して大きく減少しています。

□市民の「加賀野菜」の認知度は高いものの、三大都市圏での認知度は他地域のブランド農産物に及んでいません。

□市民が身近でブランド農産物を手に入れにくく、地産地消を進めるための課題となっています。

施策の方向性

- I 安定した生産体制の確立と品質の向上
- II 競争力のあるブランドの育成
- III 食文化の魅力発信を通じた消費の拡大

6) 施策の体系

※ 現戦略の取組からの変更内容は青文字、新規追加内容は赤文字

方向性と施策（大区分）		施策（中区分）		個別施策の実施内容		KPI（重要業績評価指標） (R8→R12)	
I 安定した生産体制の確立と品質の向上	1. 担い手の育成・支援と労働力の確保	①金沢農業大学校の研修体制の充実・修了生への支援	改・金沢農業大学における人材育成・カリキュラムの見直し 改・金沢農業大学校修了生等への就農支援・フォローアップの充実 等	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者への各種支援 改・既就農者が新たに加賀野菜を作付けする際の生産者組織への支援 等 新・他産地・他産業との労働力の融通など連携体制の構築 新・農福連携のほか アクティブシニアやボランティアの活用など新たな労働力確保の検討 等 	<ul style="list-style-type: none"> 加賀野菜の農家戸数 (310→310人) 金沢そだちの農家戸数 (175→175人) 		
		②新規就農者等の育成・支援と既就農者の取込み					
		③多様な労働力の確保					
	2. 社会情勢や環境に即したブランド農産物の安定供給	①地球温暖化に対応した安定生産と省力化技術の普及推進	改・高温化対策技術の確立・普及 改・スマート農業機械等の実証や情報提供、研修会等の開催、導入支援 等	<ul style="list-style-type: none"> ・「農の匠」による技術講習会の実施 改・技術の継承に向けた巡回指導等の実施 等 改・環境保全型農業への理解促進等 ・安全安心な生産の農業経営改善のための農業生産工程管理（GAP）の普及、徹底 等 ・認定農業者や集落営農など、多様な担い手への農地の集約化と基盤整備等への支援 ・適地及び新たな作型の調査、検討 	<ul style="list-style-type: none"> 加賀野菜・金沢そだちの1戸あたり生産量 (46,634→51,297kg) 		
		②栽培技術の継承					
		③生産管理の徹底					
		④市内産地拡大の検討					
	3. 希少品目の維持、拡大	①種の保存に向けた栽培技術の継承	新・加賀野菜の希少品目を次世代に継承するため、農業センターの取組を強化 改・技術の継承に向けた巡回指導等の実施 等	<ul style="list-style-type: none"> 改・個人として栽培している生産者の生産者組織への加入促進方法の検討 ・集落営農や大規模園芸農家による転作物としての希少品目の生産推進 等 	<ul style="list-style-type: none"> 加賀野菜希少品目の農家戸数 (22→24戸) 		
		②希少品目の担い手の掘り起こし					
II 競争力のあるブランドの育成	1. 販路開拓と農商工連携の強化	①生産者、流通業者、実需者の連携強化	・市内外の市場や量販店等での消費宣伝活動の実施 ・金沢ブランド農産物の利用拡大に向けた加賀野菜販売店登録制度の活用 等	<ul style="list-style-type: none"> 改・流通の省力化に向けた集出荷施設等の整備支援 ・貯蔵性を高める設備の充実 改・コネクターによる入口から出口までの支援 ・各種制度を活用した施設整備等への支援 等 	<ul style="list-style-type: none"> 加工品の開発支援数 (2→5件(5年通算)) 加賀野菜販売店登録制度の登録割合 (44→67%) 		
		②集荷施設等の合理化による流通体制の省力化					
		③加工品開発等のサポート体制の充実					
	2. 希少品目の需要拡大	①加工品開発等の取組支援	改・長期間の保存を可能とする一次加工を含めた加工品開発等の支援	<ul style="list-style-type: none"> 新・スーパー等での加賀野菜の伝統的な食べ方による惣菜等の試食販売の促進 改・希少品目を生きた市内飲食店等でのメニューの開発・定番化の促進 ・希少品目による特産品づくりの推進 改・大学と連携したレシピ開発・動画発信などの産地づくりとPR活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 加賀野菜希少品目のPR回数 (2→2回/年) 加賀野菜希少品目の生産量 (6,006→6,607kg) 加賀野菜希少品目の農家戸数【再掲】 (22→24戸) 		
		②希少性に着目した飲食店等での需要の確保					
		③多様な主体との連携による産地の活性化					
	3. ブランド認知度の更なる向上と販促活動の強化	①ブランド認知度の更なる向上に向けたPR活動の実施	改・都市圏の飲食店やイカガキと連携した、食を通じたPRの実施 ・PR映像や加賀野菜イメージキャラクターを活用した市内外でのPR活動の実施 等	<ul style="list-style-type: none"> 改・効果的な販売促進方法の企画と実施 改・大手民間事業者とのタイアップ企画等によるPRの検討と実施 等 改・金沢そだちの新たな品目の調査と検討 改・希少品目の対象の見直し検討 等 	<ul style="list-style-type: none"> 認知度の低い加賀野菜9品目※の市民の認知度 (55→66%) ※くわい、金沢春菊、打木赤皮甘栗かぼちゃ、金沢せり、金沢一本ねぎ、赤ずいき、加賀つるまめ、ハタ紫なす、二塚からしな 市民の金沢そだちの認知度 (45→93%) 		
		②販売促進方法の充実					
		③金沢ブランド農産物の新たな品目や希少品目対象の検討					
III 食文化の魅力発信を通じた消費の拡大	1. 地産地消の推進による消費拡大	①加賀野菜販売店の拡大と連携強化	新・加賀野菜販売店の登録拡大に向けた伝統的な料理などを生かした取組の充実 新・加賀野菜の品目ごとの生産量に合わせた加賀野菜販売店でのキャンペーンの実施 等	<ul style="list-style-type: none"> 改・地元水産物（海幸金沢等）と連携した、飲食店等での活用促進に向けた取組 改・生産者の顔が見える金沢産農産物の発信 等 	<ul style="list-style-type: none"> 加賀野菜大量品目の生産量 (3,804→4,184t) 加賀野菜希少品目の生産量【再掲】 (6,006→6,607kg) 金沢そだちの生産量 (10,641→11,705t) 加賀野菜販売店登録制度の登録割合【再掲】 (44→67%) 市内での加賀野菜・金沢そだちのPR実施回数 (10→30回(5年通算)) 		
		②金沢産農産物を食べる機会の創出					
	2. 首都圏等における消費拡大	①首都圏等における誘客促進と消費拡大	新・友好交流都市等におけるPRの実施 新・ふるさと納税の活用推進 等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食を通じた食べる機会の創出や生産者との交流 ・学校授業における地産地消に関する副読本の活用 等 改・スーパー等やSNS、リアルを活用した伝統料理や家庭料理レシピの発信 ・金沢ブランド農産物を使用した市民向け料理教室の開催や支援 等 ・金沢の食文化を背景としたイベントの開催 ・金沢湯涌みどりの里等の施設を活用した、農と食を楽しむ体験型イベントの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 首都圏等での加賀野菜のPR実施回数 (10→20回(5年通算)) 学校等での生産者交流会の実施回数 (36→39回/年) レシピ動画の平均再生回数 (524→1,000回) 		
		①園児や小学生等を対象とした食育環境の充実					
	3. 食文化の継承に向けた食育の推進	②食べ方や調理方法の発信					
		③食文化に触れる機会の確保					

(参考)用語の説明

ページ	項目	用語	説明
1	4	加賀野菜	昭和20年以前から栽培され、現在も金沢で栽培されている野菜 品目：さつまいも、加賀れんこん、たけのこ、加賀太きゅうり、ヘタ紫なす、金沢せり、金時草、打木赤皮甘栗かぼちゃ、源助だいこん、金沢一本太ねぎ、加賀つるまめ、二塚からしな、赤ずいき、くわい、金沢春菊
		加賀野菜希少品目	加賀野菜に認定されている15品目のうち、生産量・生産者ともに減少し、存続が懸念されている品目 (ヘタ紫なす、金沢せり、加賀つるまめ、二塚からしな、赤ずいき、くわい)
		金沢そだち	金沢の風土を活かして生産された、優れた特徴や品質を有するなど一定の条件を満たす野菜(加賀野菜は除く) 品目：すいか、なし、だいこん、小玉すいか、トマト、きゅうり
2		スマート農業	ロボットやAIなどの先端技術を使って、農業の作業効率化や品質向上を目指す取り組み
		環境保全型農業	農業の持つ物質循環機能を生かし、生産性との調和などに留意しつつ、土づくり等を通じて化学肥料、農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業
3	6	農福連携	障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組
		認定農業者	5年後の経営改善目標を記載した農業経営改善計画を立てて、市町村の認定を受けた農業者
		集落営農	集落等地縁的にまとまりのある一定の地域内の農家が農業生産を共同して行う営農活動
		農地の集約化	農地の集約化とは、農地の利用権を交換すること等により、農地の分散を解消することで農作業を連続的に支障なく行えるようにすること
		実需者	生産者から仕入れた商品を消費者に提供している量販店や外食産業、食品加工業者等
		一次加工	農産物を、素材の性質を大幅に変えたりほかの食材を加えたりすることなく、保存性を高めたり、商品などの製造時の原料として使いやすくすること
		金沢ブランド農産物	「加賀野菜」「金沢そだち」の総称
		加賀野菜大量品目	加賀野菜に認定されている15品目のうち、生産量がある程度確保されている品目 (さつまいも、加賀れんこん、たけのこ、加賀太きゅうり、金時草、打木赤皮甘栗かぼちゃ、源助だいこん、金沢一本太ねぎ、金沢春菊)
		海幸金沢	金沢港で水揚げされる水産物